とよたいせき

豊田遺跡

2003.6

長野県飯田市教育委員会

例　　言

1．本書は株式会社ケーヨーの店舗建設に先立って実施された、長野県飯田市上郷黒田1178所在の豊田遺跡の緊急発掘調査報告書である。
2．調査は株式会社ケーヨーの委託を受け、飯田市教育委員会が直営実施した。
3．調査は、平成15年５月14日に現地作業、その後整理作業及び報告書作成作業を行った。
4．発掘作業・整理作業にあたり、遺跡略号としてTYTを一貫して用いた。
5．本報告書では、SM－方形周溝墓・SK－土坑の遺構略号を使用している。
6．本書の記載順は遺構別を優先した。
7．土層の色調については、『新版標準土色帖』の表示に基づく土色計（第一合成株式会社製、SCR－1）を用い、マンセル表示で示した。
8．本書に関わる図面の整理は、調査員・整理作業員の協力により馬場保之が行った。
9．本書に関連した出土遺物および図面・写真類は飯田市教育委員会が管理し、飯田市考古資料館・飯田市上郷考古博物館に保管している。

本　文　目　次

例言
目次
第Ⅰ章　経　過
　第１節　調査の経過
　第２節　調査組織
第Ⅱ章　調査結果
　第１節　微地形
　第２節　遺構と遺物
　（１）方形周溝墓
　（２）土　坑
　（３）遺構外出土遺物
第Ⅲ章　総　括
報告書抄録

挿　図　目　次

挿図１　　調査区位置図
挿図２　　SM01・SK01・SK02

写真図版目次

図版１　　SM01・SK01・SK02

第Ⅰ章　経　過

第１節　調査の経過

当該地は上郷町時代の昭和54･55年度に農村基盤総合整備事業が実施されているが、これ以前に埋蔵文化財包蔵地として把握されていなかったため、施工時の調整や試掘・発掘調査は実施されていない。また、工事中の遺物出土はなく、昭和57年度に実施された上郷町遺跡詳細分布調査では遺跡外とした経緯がある。平成７年度に飯田市教育委員会が実施した市内遺跡詳細分布調査では遺物出土の他地形を含めて埋蔵文化財包蔵地を把握したが、既に土地改良事業により大規模に地形改変が行われていることから、こうした観点からの包蔵地としての把握は困難であった。

一方、平成14年10月15日千葉市若葉区みつわ台１丁目28番１号　株式会社ケーヨー　代表取締役社長　林　武夫より、飯田市上郷黒田1105－１他における大規模小売店舗建設に係る開発行為許可申請書が出され、同年12月６日事業地の一画にかかる増田遺跡について土木工事等のための埋蔵文化財発掘の届出書が提出された。そこで現地における事業者側と市教育委員会との二者協議の結果、周辺地のこれまでの調査状況や、当該部分が耕土鋤取後盛土して駐車場とする工事内容等を考慮し、工事立会とすることとした。

諸協議を経て、平成15年５月１日増田遺跡について立会調査を実施した。同２日、増田遺跡の範囲外で弥生時代後期の遺構・遺物が確認され、未周知の埋蔵文化財包蔵地であることが判明した。同６日事業者から発見の届出書が提出され、飯田市教育委員会の意見書を付し長野県教育委員会に送致した。なお、新発見の遺跡は豊田遺跡として登録することとなった。

新発見の遺跡の保護取扱いについて、事業主・市教育委員会・県教育委員会の三者で協議・調整を重ねた結果、まず遺構の分布状況を把握し、遺構の確認された部分について記録保存を行うこととなった。そこで、同12日重機により表土剥ぎ・遺構確認作業を行い、飯田市上郷黒田1178番地の一部について本発掘調査実施が不可欠と判断された。同14日作業員を入れて発掘調査を実施し、検出された遺構の掘下げ・実測・写真撮影作業を行い、同日現地作業を終了した。

その後、飯田市考古資料館において、出土遺物や現地で記録された図面･写真類の整理作業を行い、本発掘調査報告書の執筆・編集を行った。

第２節　調査組織

（１）調査団

調査主体者　　飯田市教育委員会　教育長　冨田拳啓　（平成11年12月～）

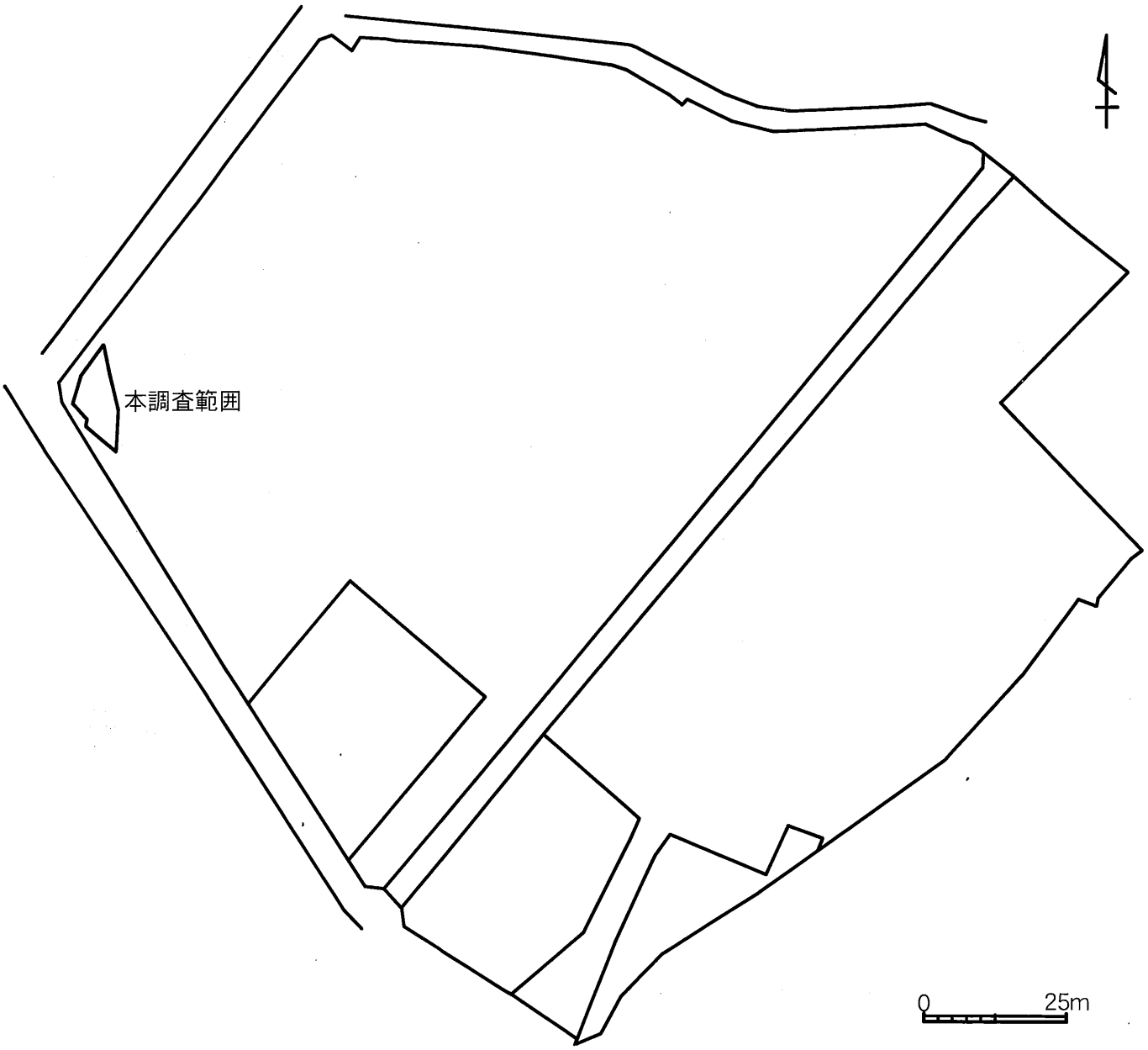
調査担当者　　馬場保之・伊藤尚志

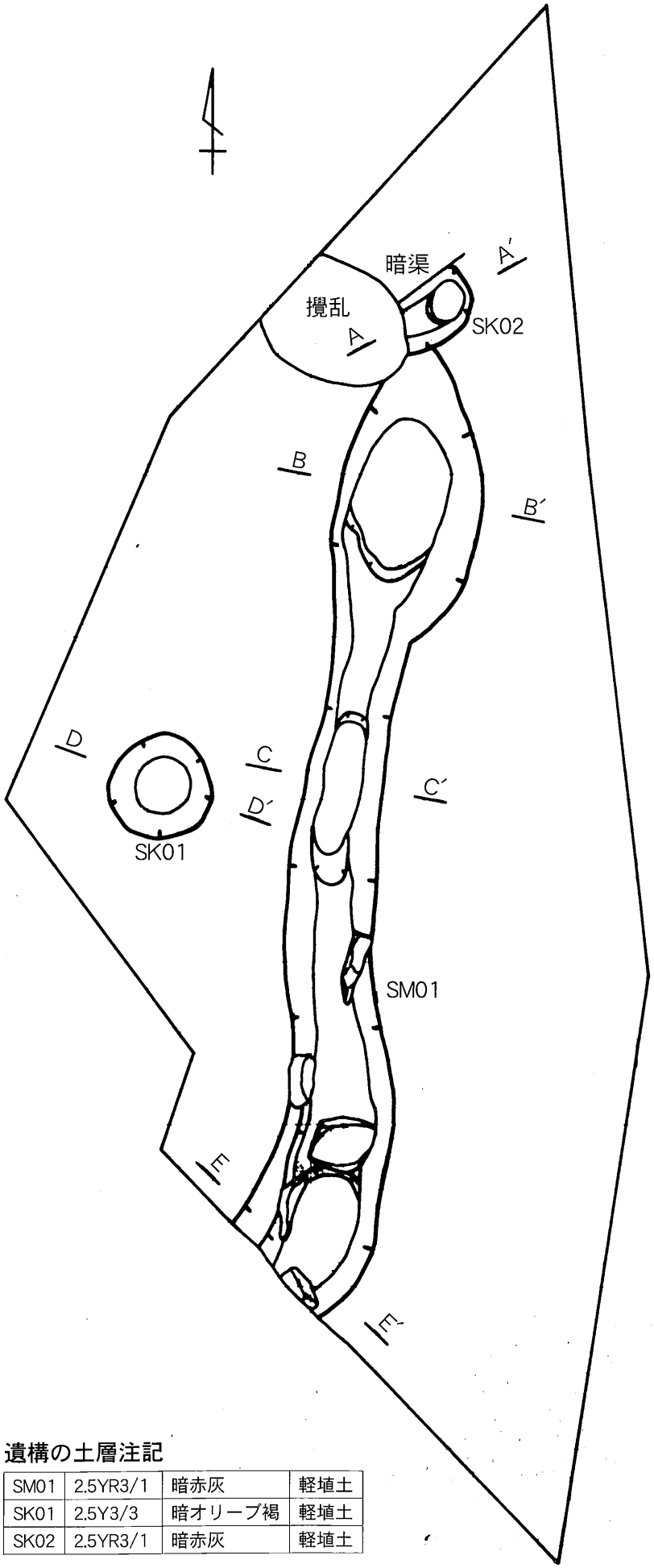
作　業　員　　地元協力者の方々

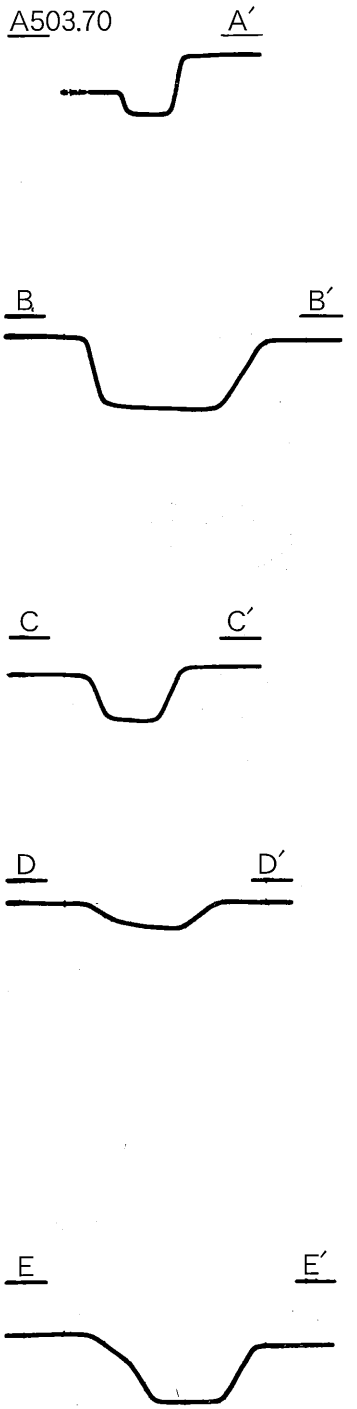
（２）指　導　　長野県教育委員会

（３）事務局　　飯田市教育委員会

尾曽幹男（教育次長）、小林正春（生涯学習課長）、吉川豊（生涯学習課文化財保護係長）、馬場保之・渋谷恵美子・吉川金利・伊藤尚志・羽生俊郎（以上生涯学習課文化財保護係）、佐々木行博（生涯学習課文化係）


本調査範囲
0
25m





遺構の土層注記

SM01	2.5YR3/1	暗赤灰	軽埴土
SK01	2.5Y3/3	暗オリーブ褐	軽埴土
SK02	2.5YR3/1	暗赤灰	軽埴土

0　2m

第Ⅱ章　調査結果

第１節　微地形

調査区の北東側は基盤整備施工前には微高地の頂部であったと考えられ、削平を受けている。ロームが良好に堆積しており、層中に花崗岩の半腐れ礫が含まれ、大きいものは１ｍを超える。そのさらに北東側増田遺跡との間には比高差50㎝程で湿地帯が広がる。調査区南西側はやはりすぐに湿地となり、比高差は80～100㎝程度となっている。

今次調査で遺構が確認された部分は島状に展開する微高地の縁辺部にあたる。

第２節　遺構と遺物

弥生時代の墳墓（方形周溝墓）１基と、土坑とよばれる一定規模の掘込み２基が調査された。

（１）方形周溝墓

①SM01（挿図２）

［検出位置］調査区南西端　［重複］SK01・SK02と重複する。埋土の色調からSK01を切ると考えられるが、SK02との新旧関係は不明　［調査所見］周溝の東辺のみ確認された。東辺中央部は周溝の幅が狭くかつ浅くなる。地山に含まれる巨礫により十分に掘ることができなかったと考えられる。東辺周溝の北端底面は次第に立ち上がっており、この部分に土橋部が設けられる。また、この付近には周溝墓より古いロームマウンドがあり、僅かに掘りすぎた　［規模］周溝内法－×－ｍ、周溝外法－×－ｍ、確認された周溝の延長は11.9ｍ　［内法面積］－㎡　［形態］方形を呈する　［主軸］東辺の方向Ｎ８°Ｅ　【周溝】［規模］幅80～180㎝、深さ24～67㎝　［断面形］緩やかに掘りくぼむ　［土橋部］北東隅にあり。１箇所と考えられる　［埋土の状況］自然埋没と考えられる　［出土遺物］出土量は僅少。弥生時代後期壷・甕小破片が出土したが、図示できず　【埋葬施設】［有無］削平されたと考えられ、把握できず　【その他】［墳丘］圃場整備事業により削平されたと考えられ、遺存せず　［外表施設］不明　［付属施設］不明　［時期］形態・遺物等から弥生時代後期と考えられる。

（２）土　坑

①SK01（挿図２）

［検出位置］SM01周溝の西側　［重複］SM01・SK02と重複する。埋土の色調からSM01に切られると考えられる　［調査所見］性格等は不明　［規模］128×124㎝、深さ24㎝　［形態］円形を呈する　［長軸］不明　［断面形］緩やかに掘りくぼむ　［埋土の状況］単層であり、自然埋没と考えられる　［出土遺物］なし　［時期］埋土から縄文時代の可能性があるが、詳細は不明。

②SK02（挿図２）

［検出位置］SM01東辺周溝北端に重複して検出　［重複］SM01と重複するが、新旧関係は不明　［調査所見］規模はやや大きいが、断面形状から柱穴の可能性がある　［規模］92×72㎝、深さ37（58）㎝　［形態］不整楕円形を呈すると考えられる　［長軸］Ｎ62°Ｅ　［断面形］上半はやや緩やかに、下半はほぼ垂直に掘り込まれる　［埋土の状況］単層で自然埋没と考えられる　［出土遺物］なし　［時期］埋土がSM01と類似し弥生時代の遺構と考えられるが、詳細は不明。

（３）　遺構外出土遺物

調査区南東側の湿地部分から、縄文時代中期と考えられる土器片、中世の大平鉢片が出土した。

第Ⅲ章　総　　括

以上のとおり今次発掘調査では、弥生時代後期他の遺構と、縄文時代から中世にかけての遺物が調査された。遺構・遺物の分布状況から、本遺跡の中心部分は今次調査地点の北西側に広がると考えられる。

縄文時代については、土坑（SK01）が該期のものである可能性が指摘されたが、具体的な状況は不明である。隣接する増田遺跡ではこれまで前期末～後期後葉の遺構・遺物が調査されており、中期中葉から後葉にかけて集落の盛期があったことが判明している。こうした状況から、本遺跡でも縄文時代中期を中心とする遺構・遺物が確認される可能性が高いと考えられる。

弥生時代後期には方形周溝墓と土坑が調査された。方形周溝墓の形状は、北東隅に土橋部をもつもので、全体形が不明なので即断はできないが、飯田下伊那地域で主体となる形式のものではないと考えられる。方形周溝墓は南東側にはこれ以上の広がりは見られず、今次調査地点が弥生時代後期の墓域の南東端にあたると考えられる。

本遺跡周辺ではこれまで今村・原の城・増田・垣外・ツルサシ・ミカドの各遺跡で弥生時代後期の居住域･墓域が調査されており、中位段丘上に島状に分布する微高地に近接して集落が営まれている。こうした集落の生業基盤は従来から微高地上の畑作と、微高地両側に広がる湿地を利用した水稲栽培に求められている。上記各遺跡で調査されている遺構の状況からすると、継続的に大規模な集落が営まれた姿はなく、短期的に集落が移動している状況が看取される。こうした状況は同じ中位段丘上の鼎地区田井座・一色各遺跡や羽場地区羽場曙・方角東各遺跡でも指摘できる。

最後になりましたが、株式会社ケーヨーには工事中の新遺跡発見にも関わらず、その保護にご高配を賜った。記して感謝申し述べる次第である。

報告書抄録

ふりがな	とよたいせき
書名	豊田遺跡
副書名	
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	馬場保之
編集機関	長野県飯田市教育委員会
所在地	〒395-0053　長野県飯田市大久保町2534番地　Tel.0265-22-4511
発行年月日	平成15年6月10日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
とよたいせき 豊田遺跡	飯田市 上郷黒田 1178	20205		35° 31′ 20″	137° 50′ 15″	平成15年 5月14日	84㎡	店舗建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
とよたいせき 豊田遺跡	集落址	弥生時代 後期	方形周溝墓　1基 土坑　2基	縄文土器 弥生土器 大平鉢	店舗建設工事中に発見された新発見の遺跡で、弥生時代後期の墓域の一画が調査された。

豊田遺跡

2003年6月　発行

編集・発行　長野県飯田市大久保町2534番地
長野県飯田市教育委員会

印刷　長野県飯田市上郷黒田121－1
龍共印刷株式会社